事例No.	2472
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	和泉自治会

事例区分	地域活性化

タグ	・地域運営組織 ・関係人口

事例種類	地域振興

事例内容・タイトル

「ここに生き続けられるために」

出典

令和2年度優良事例表彰一覧

総務大臣賞

和泉自治会

「ここに生き続けられるために」



空き店舗を活用して、飲み物、軽食を提供する地域住民の交流の場『より処（よりどころ）』を開設し、毎週水曜に地域住民の手で運営している。和泉診療所と連携して、医師や保健師による健康づくり講座も行われる。

●事例の概要

和泉自治会では、地域住民の度重なる会議により策定した「和泉地区地域づくり計画」に基づき、「生活」、「産業」、「人・伝統」の３つのチーム体制で、地域課題の解決に取組んでいる。

「生活」チームは、最寄りの日用品販売店舗の撤退による不便を解消するため、コンビニエンスストアの誘致や空き店舗を活用した交流の場「より処」の創出をするなど、生活に対する取り組みを展開している。

「産業」チームは、和泉自治会 100% 出資で「（株）九頭竜の贈り物」を設立し、住民が育てる野菜、採集した山菜、雪乃下穴馬かぶら等の地元食品の仕入、加工、販売を行う等、和泉に立脚したビジネスとなるように取組んでいる。

「人・伝統」チームは自治会の HP や Facebook による和泉地区の情報発信を行っている。また、旧和泉村時の広報誌 48 年分をデータ化するなど、和泉地区の伝統継承にも取組んでいる。

和泉地区が住み続けられる地域であるために、各チームの発案を地域住民が主体的に実行することで、地域力・市民力の向上に繋がっている。



和泉地区唯一の日用品販売店が閉店した後、地域住民の日常生活の利便性を向上させるため、地元区長会、地元企業と共にコンビニエンスストアを誘致した。

●評価のポイント

旧和泉村は九頭竜川の最上流にあり、平成 17 年に中流の大野市と合併した。合併時に和泉地区を埋没させないために和泉自治会を結成したが、当時 669 人の人口は、平成 27 年国調では 471 人に減った。和泉自治会はその後危機感を持ち、平成 24 年から 25 年にかけて「和泉で語ろう会」を 9 回実施、さらにその意見を実行に移すために企画会議を 12 回開催、各集落への説明と区長会の了承のもと、平成 26 年に「ここに生き続けられるために」と題する和泉地区地域づくり計画をまとめた。平成 27 年から現会長のもとで「生活チーム」「産業チーム」「人・伝統チーム」の３つの活動グループの体制が活発に動き出した。

「生活チーム」は平成 26 年末に雑貨店が閉店したのを受けて、市内の精肉店と福井県民生協の移動販売を交渉、豪雪の年も含めて途切れなく販売は続いている。平成 28 年には旧 JA の空き店舗を借り受け、手づくりのリフォームで必要な道具を持ち寄ってカフェ機能をもつ「より処」を開設、女性ボランティアの世話で水曜日にランチも提供するようになった。ここではお話会の開催があり、診療所との連携で健康づくり講座や、保健師による健康チェックも行われている。さらにファミリーマートが過疎地域にも出店していることを知り、交渉の末昨年 8 月に道の駅の市の建物の一角で開業し、品揃えから地元の人にも喜ばれている。

「産業チーム」は農水省の山村活性化支援交付金を活用して準備を進め、自治会の全額出資で（株）九頭竜の贈り物を設立、市から加工場の譲渡を受け、穴馬かぶら、山菜、きのこなどの特産品を道の駅中心に出荷するようになった。

「人・伝統チーム」は自治会の HP をつくっているほか、平成 30 年から旧和泉村時代の村の広報誌のアーカイブ化に取組み、48 年間の広報をスキャナーで電子化の作業を続け、この秋には完了の予定である。伝統的なワザの継承としては、栃の実のあく抜きなどに挑戦している。伝承の昇龍太鼓の活動と青葉の笛の会とのコラボなども支援している。

会長は 67 歳、３人のチームリーダーは 62 歳、53 歳、49 歳と、奥地の自治会にしては働き盛りの世代が中心になっていて、チームにはそれぞれ６～８人のコアメンバーがいる。自治会と称するものの、旧来の自治会タイプではなく、過疎問題懇談会で提唱してきた集落を超える地域運営組織の理想形に近い。活動そのものはすべてボランティアであるが、地域愛に裏打ちされた意気込みが感じられ、しかもシステム的にうまく展開している点は、旧村を単位とする奥地山村としては極めて貴重な存在であり、高く評価できる。



食文化を伝承するため「栃の実灰汁抜き教室」を開催。名人の作業の様子を撮影し、DVD を作成して伝統的な手法を次世代に伝える取り組みを行っている。



和泉地区の特産作物である「穴馬かぶら」を、冬季間、雪の積もった土の中で寝かせることで、甘みの強い「雪乃下 穴馬かぶら」として　ブランド力の強化に取り組んでいる。



和泉地区の歴史を残し、後世に伝えるため、旧和泉村が発行していた「広報いずみ」をスキャナーでデータ化することに取り組んでいる。

DATA　福井県 大野市（おおのし）

団体名▶和泉自治会
所在地▶〒 912-0205 福井県大野市朝日１７－５（和泉公民館）
連絡先▶ TEL：0779-78-2110　FAX：0779-78-2840
E-mail：izumi-k@city.fukui-ono.lg.jp
URL：http://www1.vipa.ne.jp/~izumi-jichi/index.html

【交通のご案内】

自動車▶中部縦貫自動車道　大野ＩＣより 40 分
国道 158 号　大野市街より 40 分／白鳥 IC より 40 分
鉄　道▶ＪＲ北陸本線、ＪＲ九頭竜線を利用
金沢駅から福井駅まで 50 分
福井駅から１時間 30 分



● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
大野市（旧）和泉村	5,266	1,478	751	669	541	471

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
大野市（旧）和泉村	-91.1	-68.1	-37.3	-29.6	-12.9

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
大野市（旧）和泉村	42.0%	8.7%

20-09-343　令和2年度過疎地域自立活性化優良事例表彰パンフレット.indd　7-8　2020/11/11　20:33:28